

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ 意見まとめ

地区	西浦地区	回数	第1回
日時	平成29年9月9日(土) 午後1時～午後3時30分		
会場	西浦小学校 図書室	参加者数	25名

【公共施設マネジメントの考え方】

■基本的な考え方

将来的に人口が減少することは以前からわかっていたのだから、今から公共施設の対策をするというのは遅いくらいだと思う。

- ・ 人口減少は前からわかっていたことなのだから、公共施設の対策を今からするのは遅いくらいだ。

今後の人口減少はあくまで推計なのだから、地区の人口を増やすための取り組みがもっと必要ではないか。住宅の開発や供給、移住者に対する税金の免除など、特に若者世帯を増やすための施策を積極的に行ってほしい。

- ・ 公共施設を減らす必要性は理解できるが、西浦地区の人口を増やすために何をすべきかも考える必要があるのではないかな。
- ・ 特に若者が住みたくなるような町づくりを目指してほしい。例えば、蒲郡市内に移住した若者は税金を3年間免税にするなど、積極的な若者人口の増加方策に取り組んでほしい。
- ・ 市は人口減少対策に取り組んでいると言うが、その取り組みが不十分なのではないかな。住宅開発や供給など、若人世帯を増やすための施策を講じる必要がある。
- ・ H27からH57にかけての30年間の人口減少が予測どおりなのかが気になる。それを基準にして、公共施設を3割縮減するという考えは納得しにくい。前向きに人口を増やす取り組みを行い、施設縮減率をもっと減らせるようにはならないかな。

施設を単に縮小してしまうと利便性や魅力がなくなり、さらに利用者が減少する悪循環が起こることが心配だ。施設を有料化し、維持管理費に充てれば財政負担が軽減されるのではないかな。

- ・ それぞれの施設を単に縮小するだけでは利便性や魅力がなくなり、なおさら利用者が減ってしまう悪循環が心配される。
- ・ 公共施設の利用料を有料化して維持管理費にあてれば、財政的な負担は軽減されるのではないかな。

■施設の集約化・複合化

実施計画にある様な小学校に学童保育所やデイサービスセンターを複合化する案は、世代間の交流が期待できて良いと思う。

- ・ 公共施設マネジメント実施計画にある様に、小学校に学童保育所やデイサービスセンターを複合化する案は、世代間の交流が期待出来ていいと思う。

全市利用型施設が遠いことで不便を感じている中、地区利用型施設まで形原の方に集約、複合されてしまうとしたりより不便になってしまう。

- ・ 全市的な公共施設が遠いことで不便を感じている。西浦の施設を形原の方に集約化、複合化すると一層不便になるため考えにくい。

■交通アクセス

公共施設の集約や複合化だけでなく、施設までの交通手段の確保についても議論するべきだ。

- ・ 公共施設の集約や複合化による再編の話だけでなく、そこにアクセスする交通手段の確保についても議論するべきだ。

現在の立地のままで規模を縮小して建替える方が、これまでとアクセスが変わらないので利便性を維持できるのではないか。

- ・ 集約化、複合化ではなく、各施設をそのままの立地で縮小建替える方が、これまでと施設までのアクセスが変わらないので利便性を維持できるのではないか。

【検討の進め方】

■地区個別計画策定に向けた検討の進め方

公共施設の再編は地域にとって重要なことなので、ワークショップに参加していない総代、常会長などの地域の核となる人達の意見も聞いてはどうか。

- ・ ワークショップは原則自発的な参加の意思のある人の集まりだ。公共施設の再編は地域にとって重要なことなので、ワークショップには参加していない総代、常会長などの地域の核となる人の意見も、別途ヒアリング等を行うことで聞くべきではないか。

将来を担う若い世代や保護者層である現役世代の意見を聞くべきだ。ワークショップに参加してもらったり、その他の手段を使って意見を集めるべきだ。

- ・ 将来を担う中学生にも意見を言ってもらえるとよい。ワークショップに参加してもらえると良いが、参加が難しければ別途ヒアリング等で意見を聞いてもよい。
- ・ ワークショップ参加者に多い世代と今後30年を担う世代とでは考え方が異なるかもしれない。若い人の意見を聞ける手段を考えるべきだ。
- ・ 総代や常会長は年齢が高いことが多い。今回議論しているような学校のことを話し合うのであれば、むしろ現役世代の人たちの意見を積極的に汲み取る工夫をすべきだと思う。

オープンハウス（パネル展示型説明会）を活用して多様な世代の意見を聞いてはどうか。

人の行き来のある西浦駅や蒲郡駅、待ち時間に見てもらえそうな郵便局や JA や信金、高齢者が集まる場になっている喫茶店など、開催場所にも工夫が必要だ。

- ・ 多様な世代の意見を聞くとしたらオープンハウスが活用できる。
- ・ 多様な世代の意見を聞くためには、オープンハウスの開催場所への配慮が必要だ。例えば、小学生から高校生までの人たちに周知するためには、西浦駅や蒲郡駅でパネル展示会をやるとよいと思う。バスの中でもやれると良い。
- ・ 郵便局や JA、蒲郡信金などの公的な施設では待機時間があるので、そういう施設でオープンハウスをやると、見てもらえる可能性が高い。
- ・ 喫茶店「茶々」は高齢者が集まる場になっている。あそこでオープンハウスをやれば地域の話題になるのではないか。

借地上に公共施設があるとしたら、再編プランを作成してもその通りにいかない可能性がある。計画を検討する際には、地主との関係性や意向の把握も重要ではないか。

- ・ 公共施設に借地があれば、再編プランを作ったとしてもその通りにいかない可能性がある。計画を検討する際には、地主との関係性や意向の把握なども重要ではないか。

■ワークショップの進め方

地区の住民にとって重要な課題なので、このようなワークショップを開催していることを、かわら版やオープンハウスなどを通じて広く地区の住民に知ってもらいたい。

- ・ 町民にとって重要な課題なので、このようなワークショップを開催していることを西浦地区の町民に広く知ってもらいたい。かわら版やオープンハウスなどの機会があるならば、町民へのお知らせを十分にしてほしい。

ワークショップメンバーになったものの、高齢でケガをしたために参加できそうにない人がいるので若い人に交代できると良い。

- ・ ワorkshopに参加申し込みをした知人は高齢で、今回は膝を痛めるなどして欠席しており、今後の参加も難しい見通しだ。継続参加のルールがあるのはわかるが、若いメンバーに交代させてもらえないか。

防災の観点から検討するための資料が提供されていないので示してほしい。

- ・ 防災上の観点から公共施設再配置を検討するためのわかりやすい資料がない。

学校の空き教室の活用を検討したいので、小、中学校の空き教室の実態がわかるデータがあると良い。

- ・ 空き教室の活用を考える上で、空き教室の実態をデータで知りたい。

【地区のまちづくりの方向性】

■まちづくりの方向性

古くからの知り合いが多く互いの顔が見える関係は、ときには窮屈さを感じることもあるが、人と人とのつながりがありコミュニティがしっかりしているということでもあるので、住みやすく子育てしやすい環境だと思う。

- ・ 西浦は住むにはいいところだと思う。
- ・ 田舎の良さも悪さもあるのが西浦だ。
- ・ 西浦には住民間の深い絆があり、コミュニティがしっかりしていることが特徴だ。
- ・ 住民の間に人のつながりがあるので、住みよいまちづくりができると思う。
- ・ 古くからの知り合いが多い。
- ・ 盆踊りが存続できている絆とコミュニティは地域の誇りだと思う。
- ・ 人間関係、環境、学校等、全体に充実した子育て環境が整っている。
- ・ 顔が見える関係の中で子育てできることは、若干窮屈さもあるが、良い面が大きい。

少子高齢化対策のためにも、子育てしやすい自然環境であることをアピールしたり、現状の子育てしやすい環境をさらに伸ばすことで、若い世代が住みたくなる地域にすることが必要だ。

- ・ 西浦地区の少子高齢化対策のためにも、子育て環境を伸ばし、若い世代が住みたくなる地域にすることは急務だ。
- ・ 潮干狩りなど、海が子育てにいい自然環境であることをもっとアピールしたい。

西浦の住民は保守的で仲間意識が強いところがあるので、積極的に他地区と交流して閉鎖的な意識を変えられると良い。

- ・ 西浦地区の人たちは仲間意識が強い。閉鎖的な意識を変える意味で他地区と交流すべきである。
- ・ 保守的な地域である。

少年野球やサッカー等では他地区と交流しているので閉鎖的ではないと思う。

- ・ 少年野球やサッカー等は他地区と交流しているので閉鎖的ではないと思う。

海に近い立地を生かして大企業を誘致することなどによって地区内に雇用の場を創出し、若い人が住み続けられるようにしてほしい。

- ・ 海に近い事を活かして大企業を誘致することで、若い人の雇用を増やし、西浦に住み続けられるようにしてほしい。
- ・ 地区内に働く場がないので、若い人が仕事を求めて名古屋などに出ていくのはやむを得ないのではないか。
- ・ 西浦サーキットができる時に仕事が増えるという説明が市からあったがそうはなっていない。

西浦半島の東南側のオーシャンビューや龍田浜のウォーターフロント、魚市場、マリンス

ポーツなどの海の魅力を生かしてPRを行い、リピーターを含めた観光客を増やし地区にお金を落とせる産業おこしができると良い。

- ・ 観光客のリピーター確保に取り組んで観光を活性化させてほしい。観光客用の駅前駐車場はいつもガラガラである。例えば、魚市場を魅力的に活用するなど、知恵をしぼる。
- ・ 西浦半島の東南側はオーシャンビューを見込めるドライブスポットであり、観光面でのPRをもっと行う必要がある。
- ・ 龍田浜のウォーターフロントを活かして、ヤシの木を植えたり、花火大会を実施するなど、新しい観光スポットとして整備を図っていく必要がある。
- ・ 海に近い事を活かしてマリンスポーツで集客を行い、お金を落としていってもらった産業起こしも重要だ。
- ・ 海を生かして観光面を延ばしてはどうか。

増加している空き店舗を利用して、まちを活性化させることが何かできないだろうか。

- ・ シャッターの閉まった店舗が増えている。空き店舗を利用して何か出来ないだろうか。

■現状の課題と解決策

道路が狭く、車のすれ違いが困難、緊急、福祉車両が入れない、子どもや高齢者などの歩行者にとって危険などの問題がある。その不便さが若い世代が定着しない一因になっていると思う。

- ・ 西浦地区の従来からの課題は、道路が狭いことだ。車のすれ違いが困難で、生活が不便だ。災害時の消防車や救急車、福祉車両なども入れない場所がある。若い世代が定着しない一因にもなっていると思う。
- ・ 狭い道路で、お婆さんが乳母車を押して歩いているところに車が通るととても危険だ。
- ・ 道路が狭く、特に子どもの安全性に問題がある。

道路の狭さに対して、建築基準法上の最低限の道路空間を空けて家を建てる様に徹底する、ハンプ（車の速度を落とさせるためのこぶ）を設ける、通学路では登下校時間は車を通行止めにするなどの策を講じてはどうか。

- ・ 建築基準法を守らず最低限の道路空間を空けずに構造物を建てている家が多い。法律遵守を徹底する必要がある。
- ・ 狭い道路で歩行者と車の接触が心配なところは、ハンプを設けて車のスピードを落とす工夫をしてはどうか。
- ・ 通学路になっている狭い道路は、登下校時間は車の通行止めとしてはどうか。

交通の便が悪く、通勤、通学しにくいことが人口減につながっているのではないか。もし将来的に名鉄蒲郡線が廃線になってしまったら、今よりさらに利便性が下がってしまう。

- ・ 西浦地区は交通面でとても不便な立地である。
- ・ 交通の便が悪く、通勤・通学しにくいことが人口減につながっている。

- ・ 名鉄蒲郡線が将来的に廃線となる計画があると聞いている。廃線になると通勤、通学等に支障が出るので今より交通利便性が悪くなる。
- ・ 名鉄蒲郡線が廃線になる噂もある。ガソリンスタンドもつぶれた。

蒲郡市の高齢化率は高く、その中でも西浦地区は特に高い。選挙、買い物など市の中心部に出ないとできないことが多いので、車が使えない高齢者にとって公共交通は必要だ。くるりんバスの運行範囲を西浦地区まで広げるなど、公共交通の充実を検討してほしい。

- ・ 蒲郡の高齢化率は愛知県で2位だと聞いている。西浦地区は特に高い。お年寄りは基本的に車がかえれないので公共交通は必要である。
- ・ 選挙、買い物など、蒲郡中心部に出ないとできないことばかりである。
- ・ くるりんバスの運行範囲を西浦地区までひろげてほしい。

津波が心配だが、防災マップがわかりにくく防災情報の提供に課題がある。

- ・ 津波が心配である。
- ・ 防災マップが分かりにくい。

消火栓や防火水槽の前に路上駐車がされていていざという時に使えない。看板やペンキが剥げて存在が目立たなくなっていることに問題があるので、メンテナンスが必要だ。

- ・ 消火栓や防火水槽も公共的な設備だと思うが、看板やペンキが剥げて目立たなくなり、前面に路上駐車がされてしまっているなどの問題もある。目立つようにペンキを塗るなどのメンテナンスが必要だ。

派出所が無くなったが市民パトロールなどを行い、地域の防犯活動が行われている。

- ・ 派出所が無くなったこともあり、地域の防犯活動の一つとして市民パトロール（青パト）による活動がある。

【公共施設の現状や今後について気になること】

■公共施設全般

西浦地区の公共施設は、地区内の一定の場所に集中しているため、住民の公共施設への関心もその周辺の住民に限られてくる。遠い人には公共施設の様子が伝わらない。

- ・ 西浦地区内の公共施設は、地区内の一定の場所に集中しているため、住民の公共施設への関心もその周辺の住民に限られてくる。遠い人には公共施設の様子が伝わらない。

高齢者が集まって話ができる場所が近所にあると、介護が必要な高齢者と介護している人の双方にとって良いと思う。

- ・ 介護が必要な人がいると、家族は外出することもままならない。デイサービスに行っている間は自由がきくし、気も楽になる。買い物にも行ける。高齢者が集まって話ができる場所が近所にあると楽しみにつながると思う。

ユトリーナ蒲郡は公共施設の割に利用料金が高いと感じる。

- ・ 市の焼却余熱利用施設「ユトリーナ蒲郡」の利用料金（大人 500 円）は公共の割には高いと感じている。

市民病院、図書館などの全市利用型施設が遠い。

- ・ 市民病院、図書館等の全市的公共施設が遠い。

■小学校・中学校

小学校も中学校も児童、生徒数が少ないため部活動の種類が限られ、選択肢が少ないといった問題がある。大勢の中で切磋琢磨する環境も作りにくい。

- ・ 児童、生徒の人数が少ない。
- ・ 中学校が1学年1クラスとは少なすぎる。
- ・ 保育園、小学校、中学校と12年間ずっと1学年1クラスという状況だ。生徒数が少ないため、部活が選べないといった問題も起きている。
- ・ 子どもの数が少ないので学校での部活動が成り立たない。部活動の種類が限られているため、選択肢が少ない。
- ・ 中学校の生徒が少なく、部活が限られることが問題だ。
- ・ 今自分は大学生だが、高校や大学に進学してみて自分の世界の狭さに気が付き、これまで自分が井の中の蛙だったと感じた。
- ・ 児童、生徒数が多い方が切磋琢磨する関係ができるし、部活の選択肢が増えるので、教育環境上は良いのではないか。

児童、生徒数が少ないことが地域全体で子どもを育てようという雰囲気を生んでいたりと、部活内の団結力を強めるという良い面もある。

- ・ 児童、生徒数が少ないことが、地域で育てる雰囲気を生んでいるという良い面もある。
- ・ 部員数が少ないからこそ団結力が増す効果もある。バスケ部は強い。

児童、生徒数が少ないのであれば西浦小学校と西浦中学校を複合化したり、小中一貫校にしてはどうか。

- ・ 現在西浦中学校は全校生徒 95 名ほどで、各学年1クラスずつしかなく生徒数が少なすぎる。クラス対抗は出来ないし、部活動もあまりできない。人数が少ないなら、小中一貫にしてはどうか。小、中の行事が同じ日程で行われれば、年中行事の数が少なくなるので、小学生と中学生のいる親の負担も減ると思う。
- ・ 西浦小学校と中学校の複合化は考えられる。

西浦小学校と西浦中学校を複合化するとしたら、高い場所にある中学校の立地なら津波時の避難所にもなり、防災的に安心だ。一方で、小さい子ども達の通学のことを考えると

小学校の立地の方が便が良く、各々によし悪しがある。

- ・ 西浦小学校と中学校が複合化するとしたら、現在の中学校の立地なら高い場所にあるので津波時の避難所にもなり、防災的に安心だ。
- ・ 西浦小学校と中学校が複合化するとしたら、中学校は山の上にあるので通いづらいが、小学校の立地であれば小さい子どもでも通学しやすい。

生徒数の少なさを考えると、西浦中学校と形原中学校の統合も考えられるのではないかと。ただその場合は、橋田などの形原地区から遠い子ども達の通学の利便性確保が課題になる。

- ・ 形原中と西浦中を統合するという事も考えられる。保護者の中にはそれを望む人もいる。
- ・ 子どもが減っている。中学校が形原地区の学校と統合される話もうわさになっている。
- ・ 「子どもの教育にとって望ましい学校の形」を最優先に考えるべき。ある程度の人数規模が維持できないのであれば、形原との統合も考えた方がいい。
- ・ 橋田地区の子ども達は、小学校はバス通学、中学校は自転車通学しており、現状でさえ学校が遠い。形原中に西浦中を統合した場合、橋田のあたりの子どもが自転車で通える距離ではなく、通学面での不便が増してしまう。どうすればよいか考える必要がある。

西浦中学校が形原中学校に統合されると、西浦がますます衰退してしまうのではないかと心配だ。通学も大変になるので望ましくない。

- ・ 中学校が形原地区と統合されると、ますます西浦が衰退してしまうのではないかと心配だ。
- ・ 形原中学校に西浦中学校が集約されるうわさを聞いたが、西浦がさびれてしまうので反対である。
- ・ 形原中学校に西浦中学校が集約されると通学が大変になるので反対である。

西浦中学校に在籍していても形原中学校の野球部に参加ができるなど、部活だけでも統合してはどうか。両方の中学校の生徒が来やすいように、中間にある公園や公民館などで部活動をしても良い。

- ・ 西浦中学校に在籍していても形原の野球部に参加ができるなど、部活だけでも形原中学校と統合するという案はどうか。
- ・ 部活の内容によっては、学校でやらなくてもいいかもしれない。西浦中と形原中、両方の生徒が来やすいように、中間地点にある公園や公民館で部活をやるという選択肢があってもいいのではないかと。

中学校は緑が多く、静かで良い環境が保たれている。以前は保護者も関わっていたが、今は先生方だけで維持管理をしているので、今後もその環境を維持していくためには、学校側の負担を大きくしない様に、担い手の問題を解決しなくてはならない。

- ・ 中学校は緑が多く、静かで、環境が非常に良い。
- ・ 中学校の良い環境を維持したいが、担い手の問題を解決しなくてはならない。以前は保護者が維持管理に携わっていたが、現在は先生だけでやっており、先生の負担が大きすぎる。

以前は小学校と保育園が一緒にあったが、児童数の増加に伴って保育園が移転した。今は人数が減っているのなら、再度一緒にすれば小学校の空き教室が活用でき、運動会などの行事もにぎやかになるので良いと思う。

- ・ 昔は小学校と一緒に保育園があり、運動会なども一緒に行っていた。児童数が増えて手狭になり保育園が移転したが、今は数が減って教室が空いているのなら、再び一緒にすればよい。運動会も賑やかになって良い。

小中学校の空き教室を活用してはどうか。その場合は、防犯カメラの設置など、セキュリティの課題を解決する必要があるだろう。

- ・ 小、中学校には空き教室があるので、それを活用したらよい。
- ・ 中学校の3階建ての広い校舎に、各年1クラスは空間がもったいない。
- ・ 空き教室活用にあたっては、学校に部外者の出入が発生するのでセキュリティ上の課題がある。
- ・ 生徒の安全のために防犯カメラの設置を検討してはどうか。

体育館だけでなく図工室や調理室なども開放し、様々な活動で地区の住民が学校を活用できると良い。その場合、競技によってはコートサイズなど、大人と子どもで仕様に違いがあるので配慮が必要だ。

- ・ 学校開放の多様化をする。体育館だけでなく図工室や調理室なども開放し、様々な活動で地域市民が活用できると良い。
- ・ 小学校の体育館を一般開放しているが、大人と子供ではコートサイズが異なる競技があるため使いづらい。

放課後の子どもたちの居場所づくりがもっと必要だ。

- ・ 放課後の子供たちの居場所づくりがもっと必要だ。

■保育園

西浦保育園が0歳児保育を行っていなかった頃は形原南保育園まで行く人も多かった。求めているサービスを提供している保育園や人気の高い幼稚園には、越境してでも通わせる親が多い様だ。

- ・ 西浦保育園が0歳児保育を行っていなかった頃は、すでに0歳児保育を実施していた形原南保育園に子どもを預ける人も多かったと聞いている。現在は西浦保育園も0歳児保育を実施しているので形原まで行く必要がなくなった。

- ・ 地区外にある私立のあけぼの幼稚園の人气が高く、わざわざ通わせる親御さんも多い。

■児童館

児童館にある児童クラブは手狭で、小学校からも離れているので、小学校内に児童クラブの機能を入れてほしい。

- ・ 児童館にある児童クラブは手狭で、小学校からも離れているので、小学校内に児童クラブの機能を入れてほしい。

児童館では未就園児、未就学児も元気よく遊んでおり、子どもに充実した遊び環境を提供する施設は増やしたい。

- ・ 未就園児、未就学児の子どもが元気よく遊んでいる。子どもにとって充実した遊び環境を提供する児童館の様な施設は増やしたい。

■公民館

公民館には利用率の低い部屋があるが、利用者数は市内で上位である。

- ・ 公民館には利用率の低い部屋がある。
- ・ 公民館の利用者数は、市内の公民館の中で上位である。

市の出張所が無くなったが、公民館に代替機能があるので特に不満はない。

- ・ 市の出張所が無くなったが、公民館で代替機能が行われているので特に不満はない。

【その他】

- ・ 市民は基本的には地震や津波等に対する防災の意識は持っている。消防団員の立場から言うと、地域に大きな火災や災害が起きると市民の防災意識も高まるものだ。しかし、去年は大きな災害は少なかったように思う。
- ・ 豊川市の人口が増えていることが気になっている。蒲郡市との違いは何か。
- ・ 人口を増やし、同時に治安を維持するために、海上自衛隊の誘致をしてはどうか。
- ・ 地区外の施設だが、市民体育センターの空調は冷房が効かない。なんとかしてほしい。
- ・ 現在のにしうら児童館は元は西浦西保育園だった。